

Subject : **Japanese**Production of Courseware  
 - Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 13 : **アスペクトとテンス (Aspect and Tense)****Development Team****Principal Investigator:****Prof. Anita Khanna**

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

**Paper Coordinator:****Prof. Prashant Pardeshi**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

**Content Writer:****Prof. Kazuyuki Kiryu**

Mimasaka University

**Content Reviewer:****Prof. Hideki Kishimoto**


Kobe University

Japanese

Japanese Linguistics

アスペクトとテンス (Aspect and Tense)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	アスペクトとテンス (Aspect and Tense)
Module ID	JPN-P02-M13
Quadrant 3	<a href="#">Learn More</a>

 **Pathshala**  
पाठशाला  
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

アスペクトとテンス (Aspect and Tense)

### Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

#### 参考文献

寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版.

日本語記述文法研究会 (編) (2007) 『現代日本語文法 3: 第 5 部アスペクト, 第 6 部テンス, 第 7 部否定』くろしお出版.

吉川武時 (1989) 『日本語文法入門』アルク.

#### Interesting facts

せいよう どうし じかんてきてんかい かんてん はじ ぶんるい  
 西洋において動詞のタイプを時間的展開の観点から初めて分類したのは Zeno Vendler  
 である。Vendler は、1957 年に Verbs and times という論文を *Philosophical Review* で  
 はっぴょう どうし てき かんてん  
 発表した。動詞をアスペクト的な観点から states (know, love, etc.), activities (run, drive,  
 etc.), achievements (arrive, break, etc.), accomplishments (draw a picture, run a mile) の 4 つの  
 しゅるい わ ろんぶん どうし しんこうけい い み も こうぶんてききじゅん  
 種類に分けた。この論文では、動詞の進行形がどのような意味を持つかなど構文的基準  
 もち はんべつ おこな ろん じゅうよう しゅつぽつてん ゆうめい  
 を用いて判別を行っており、アスペクト論の重要な出発点となるものとして有名で  
 ある。

じつ に ぶんせき ねんはや ねん にほん  
 しかし、実は、似たような分析が、Vendler よりも 7 年早い 1950 年に日本において  
 はっぴょう きんたいちはるひこはかせ こくごどうし いちぶんるい ろんぶん  
 発表されていたのである。金田一春彦博士が、「国語動詞の一分類」という論文にお  
 いて、テイル形を判定基準として動詞をアスペクト的に分類することを行っていた。

きんだいち どうし じょうたいどうし けいぞくどうし しゅんかんだうし だいやんしゅ どうし ぶんるい  
 金田一は、動詞を「状態動詞」「継続動詞」「瞬間動詞」「第四種の動詞」に分類して

いる。Vendler の分類の activities と accomplishments は「継続動詞」に対応し、また、

だいやんしゅ どうし ぶんるい たいおう すぐ  
 第四種の動詞という Vendler の分類には対応するものがない「優れる」「ばかげる」な

つね けい つか どうし もう ざんねん きんだいち ろんぶん  
 ど常にテイル形でしか使わない動詞を設けている。残念ながら、金田一の論文は、

にほんご か けんきゅう さきが にほんこくがい  
 日本語で書かれていたため、アスペクト研究の先駆けにもかかわらず、日本国外では

し にほん けんきゅう たんしょ けんきゅう  
 知られていない。しかし、日本におけるアスペクト研究の端緒となる研究である。

うえ み どうし あらわ じたい ないめんてき じかんできとくちょう き  
 ちなみに、上で見たような動詞が表す事態の内面的な時間的特徴によって決まる

じたい ごいてき けい けい  
 事態のタイプ (situation type) を「語彙的アスペクト」とよび、タ形やテイル形など

ぶんぼうてきけいしき あらわ できごと みかた ぶんぼうてき よ  
 文法的形式によって表される出来事の見方 (viewpoint) を「文法的アスペクト」と呼ぶ。

\*\*\*\*\*